

全国海の再生・ブルーインフラ賞の取組状況

一般財団法人 **みなと総合研究財団**

【創設の背景】

国土交通省港湾局が「命を育むブルーインフラ拡大プロジェクト」を開始し、藻場や干潟等の創出に取り組む担い手の全国展開を目指していることを踏まえ、みなと総合研究財団は、新たに「全国海の再生・ブルーインフラ賞」を創設。

【募集対象】

全国の海域及び沿岸域における環境再生、普及啓発、青少年の育成のほか、ブルーインフラの保全・再生・創出に取り組む団体活動（事業活動またはその一環として取り組んでいるものを含む）であって、社会貢献の実績と成果を有するもの

※過去に授賞した取り組みとその活動内容や取り組み主体が同一であると認められる場合には表彰の対象としない

【応募資格】

自治体、市民団体、民間企業、学術研究機関等の複数の主体が携わる団体活動。

【表彰種類】

国土交通大臣賞 : 特に優れている取組
みなと総研賞 : 優れている取組

【評価の視点】

- ・活動の目的: 環境や社会に対する貢献といった本賞の趣旨との適合性
- ・取り組みとその成果: 取り組みの内容、特色とその成果
- ・取り組みの継続性: 環境に係る取り組みの継続期間
- ・取り組みの独自性・先進性: 環境に係る取り組みの独自性・先進性

【審査等の状況】

令和7年 1月16日 審査委員会開催
1月29日 審査結果プレスリリース
2月28日 第2回授賞式(第19回海の再生全国会議in伊勢湾と併催)

【国土交通大臣賞】 1件

取組名:佐久島の海を守る～子どもたちが主体で行うアマモの保全活動～

応募者:愛知県西尾市立佐久島しおさい学校

授賞理由:アマモ保全活動を学校の教育課程の中の「総合的な学習の時間」に位置付け、長年にわたり継続的に、生徒が全学年でアマモの保全活動に関することを学べるようにしている点や、アマモ保全活動が島の未来につながることを意識して取り組んでいる点などを評価した。

佐久島の海を守る ～子どもたちが主体で行うアマモの保全活動～

応募者: 愛知県西尾市立佐久島しおさい学校

協力者・関係者: 西尾市佐久島振興課、島を美しく作る会、佐久島しおさい学校、佐久島保育園、佐久島観光の会、愛知教育大学、三谷水産高校、一色高校、日本郵船、旭運輸、人間環境大学

□取組概要

- ・本校のある佐久島では、2002年に「きれいな海にして魚を増やしたい」という生徒の思いからアマモの保全活動が始まり、22年間子どもたちが主体となりこの活動を受け継いでいる。
- ・アマモの保全活動の年間の計画(右の図)を作成し、子どもたち主体で以下のような活動している。
- ・活動の成果を、島内外の発表会、西尾市の広報、愛知県のシンポジウム等で発信している。
- ・2025年1月、Jブルークレジットに認証される。

月	活 動 内 容
1	追究テーマを考える
2	追究テーマの決定
3	アマモTシャツの作成
4	しおかぜ参観日
5	アマモの種取り アマモボランティアの準備
6	アマモボランティア アマモの授業
7	生き物調査
8	夏休み
9	アマモの生態調査
10	アマモ活動のまとめ
11	ポステラマットの設置
12	しおかぜ学習発表会



子どもたちによるアマモの説明



アマモ場の生き物調査



アマモの種取りの説明



名古屋港水族館での発表



アマモTシャツ



ポステラマットの設置



12月のしおかぜ学習発表会



アマモボランティア



理科のアマモの授業



海底に育ったアマモ



アマモの種を取り、冷蔵庫での保存

島・地域・行政

子どもたち

専門家

【みなと総研賞】 2件

取組名：岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

応募者：岩手県洋野町

授賞理由：Jブルークレジット®の販売によって得られた収益を活用し、地域独特の資産を活用した活動の持続可能性を確保しようとしている点、地域と企業が連携して藻場の環境改善につなげる技術開発に取り組んでいる点などを評価した。

取組名：関西国際空港 豊かな藻場環境の創造

応募者：関西エアポート株式会社

授賞理由：空港島の建設時から豊かな藻場環境の創出を目指し、モニタリングを長年にわたり継続的に実施し、得られた知見をもとに藻場の生息する環境の変化に対応した保全活動を着実にを行っている点などを評価した。

岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

応募者：岩手県洋野町

協力者・関係者：洋野町ブルーカーボン増殖協議会

(種市漁業協同組合、洋野町漁業協同組合、小子内浜漁業協同組合、
洋野町、住友商事(株)、住友商事東北(株))



プロジェクトの概要：

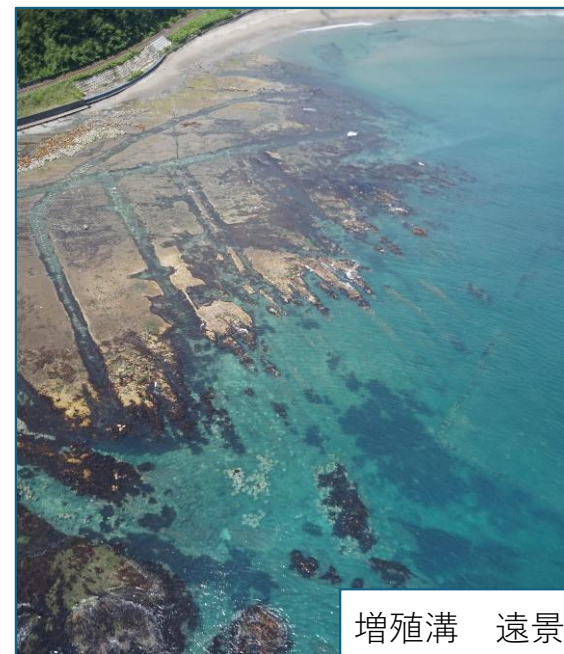
洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約 1万5千人の町。三陸地方に見られるリアス式海岸と異なり、湾入部がない南北の海岸線約20kmに沿って、断続的に平坦な岩盤(種市層)が平均150m沖まで張り出しています。洋野町では、約50年前から、岩盤に溝を掘り、ウニやアワビ漁に利用してきました。それが増殖溝です。

プロジェクトの特徴・PRポイント：

増殖溝178本の総距離は17.5km、幅は約4m、深さは約1mにわたり、干潮時でも波力により新鮮な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥に耐え、生育しやすい環境を創り出しています。

増殖溝やその周辺で育った海藻は、潮の干満により流れ藻として海に流出し、CO2を海底に固定することにより貢献してきました。また、増殖溝によって、身入りの良い高品質なキタムラサキウニが豊富に採れるようになり、ウニ漁と藻場の保全、即ち気候変動対策を両立させる持続可能な漁業が受け継がれてきました。

今回のクレジット販売により得られた資金は、洋野町ブルーカーボン増殖協議会が中心となり、気候変動対策の更なる発展のために活用していきます。



協力者・関係者：大阪府、阪南市、大阪府漁業協同組合連合会、
大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)



関西国際空港について

- 1994年9月に開港(開港30周年)
- 建設の原点「公害のない、地域と共存共栄する空港づくり」
- 大阪湾南東部 泉州沖約5kmの沖合に建設した海上空港(水深約20m)



関西国際空港の全景



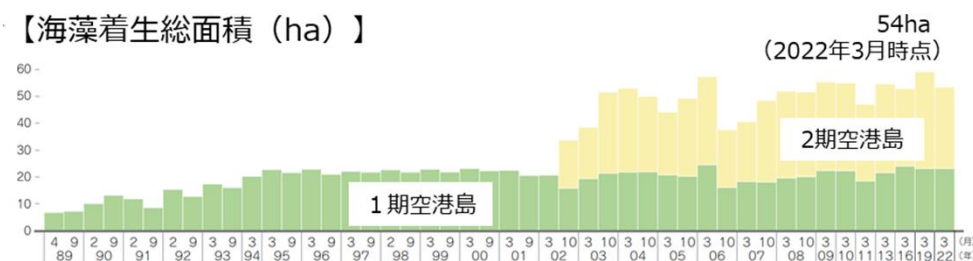
ガラモ場に集まるメバルの幼稚魚



関西国際空港の藻場

- 護岸総延長(約24km)の約9割は「緩傾斜石積護岸」
- 海藻着生総面積(藻場面積)は、54ha
- 空港島周辺には藻場を中心に多種多様な生き物が生息

【海藻着生総面積(ha)】



プロジェクトの特徴

- 1988年空港島造成時点から藻場造成を行い、約35年間、継続してモニタリング調査を実施
- 調査結果を踏まえ、藻場環境の変化や護岸の沈下・越波対策等の外的環境の変化に対応した藻場の再生・保全対策を実施
- 周辺自治体と協働して、海域環境の保全活動を実施(藻場の再生・創出、子供たちへの環境教育、情報発信)
- ブルーカーボンとして、脱炭素社会に貢献(2017~2021年度5か年のCO2吸収量: 103.2 t-CO2)
- 自然共生サイト認定、30by30目標・生物多様性保全に貢献



大型海藻の母藻の移植・設置



保護網の中で育つカジメ



周辺自治体海域への海藻移植時の環境学習



小学生を対象とした海上から見る空港ツアー



地元小学校への出張授業



関西国際空港内環境関連展示ブース

第2回全国海の再生・ブルーインフラ賞授賞式

第19回海の再生全国会議 in 伊勢湾

伊勢湾再生に向けた取り組み

～ 豊饒な宝の海を取り戻すために今できること ～

& 第2回全国海の再生・ブルーインフラ賞 授賞式

日時：令和7年2月28日（金） 13:00～17:00（開場 12:30）

場所：中電ホール

名古屋市東区東新町1番地 （「中電ホール」で検索！）

（地下鉄東山線「栄駅」から徒歩約5分、地下鉄桜通線「高岳駅」から徒歩約8分）

参加無料

<第2回全国海の再生・ブルーインフラ賞 授賞式>

主催：一般財団法人 みなと総合研究財団

後援：国土交通省

会場定員 先着200名
オンライン 500名

プログラム（13:00～）→ <https://www.wave.or.jp/doc/blueinfra.html>（「みなと総研」で検索！）

<第19回海の再生全国会議 in 伊勢湾>

主催：国土交通省 中部地方整備局

共催：公益社団法人土木学会中部支部

後援：伊勢湾再生推進会議、東京湾再生推進会議、大阪湾再生推進会議、広島湾再生推進会議

協力：特定非営利活動法人伊勢湾フォーラム

プログラム（14:00～17:00）

・基調講演「伊勢湾再生や今日の海洋環境に関わる最新の話題（仮題）」

名城大学大学院 特任教授 中田 喜三郎 氏

・話題提供

「三重県における栄養塩類管理の取組」

三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課 主任 水谷 彼方 氏

「三河湾を支える将来世代の育成」

蒲郡市教育委員会生涯学習課 副主任 杉浦 崇文 氏

「ブルーカーボンでつながる人と資源の循環」

鳥羽磯部漁業協同組合戦略企画室 室長 小野里 伸 氏

「いのち豊かな伊勢湾再生に向けた森づくり」

中部国際空港㈱ 執行役員 塩田 昌弘 氏

・各湾からの報告（東京湾、大阪湾、広島湾、伊勢湾）

・パネルディスカッション 「豊かな伊勢湾の再生に向けて」

～ 多様な主体の連携と将来世代の育成はどのように進めればよいのか ～

コーディネーター 日本福祉大学 特任教授 千頭 聡 氏

お申し込み方法 申込み〆切：令和7年2月25日（火）

1. 専用フォームから申込み

下記のアドレスにアクセス、または右の2次元バーコードを読み取って

専用の申込フォームでお申し込みください

<https://forms.office.com/r/bBb4K7BnzU>（← PDFはリンクをクリック）

2. E-mailで申込み：以下の情報を umi-saisei19@wave.or.jp へてにお送りください

①氏名、②所属、③E-mailアドレス、④参加方法〔会場 or オンライン〕、⑤CPD申込の要否

☆会場参加申込みが定員に達した場合はオンライン参加となりますのであらかじめご了承ください

☆オンライン参加の方には後日ウェビナーの招待メールをお送りします

問合せ先：一般財団法人みなと総合研究財団 担当：菅家・田村

E-mail：umi-saisei19@wave.or.jp



海の再生全国会議は
土木学会認定CPD
プログラムです。

日時：令和7年2月28日（金）
場所：名古屋市・中電ホール

授賞式 13:00～
全国会議 14:00～